

## B—62 身体の運動と被服構成（第2報） —アーム・ホールの変化について—

名古屋市立女短大 高橋 春子

1. 衣服を着用して腕の動作をする時に、その運動の機能性が高められるような、着心地の良い形態であることが必要であると共に、美の要素をもっていることが考えられる。これらの点から、機能性と寛度（ゆるみ）の相関性を考察して、被服構成の資料を得るために本実験を企画した。今回は、アーム・ホール位置における皮膚面の移動状態を、動作によって生じる軌跡についてしらべることが目的とする。

2. 動作の種類は、前回につづいて腕の前後運動、上下運動である。それらの動作によって生じる皮膚の動きの軌跡について、起点と終点との間を4等分し、そこに生じる形状および面積を、ストロボ装置 SS-4-A型（東芝製）によってしらべた。

3. 腕の動作による皮膚面の動きは、微妙であり、複雑である。すなわち、皮膚面の動きの軌跡をたどりながら、そこに生じる面積、形などを知ることによって、ただ単に皮膚面に線をえがいてできた形のひずみでは得られないような、皮膚面の動きをとらえることができた。これらの資料をさらに多く得て、被服構成におけるアーム・ホール縫目の位置、袖下（腋窩部）のゆとりなどについての資料としたい。